

# 感染症発生動向調査委員会報告 1月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザ注意報が発令されました。
- 感染性胃腸炎が神奈川県で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

## 全数把握疾患

### <コレラ>

O1 エルトール小川型 1 件の報告がありました。フィリピンでの経口感染が推定されています。現在までにコレラの世界的流行は7 回にわたって記録されており、第1 次流行からの第6次流行までは、すべてインドのベンガル地方から世界中に広がり、原因菌は O1 血清型の古典コレラ菌でした。しかし、1961 年にインドネシアのセレベス島(現スラワシ島)に端を発した第7 次流行は、O1 血清型のエルトールコレラ菌であり、この流行が現在も世界中に広がっていて、終息する気配がありません。WHO に報告されている世界の患者総数は、ここ数年 20 ～30 万人ですが、実数はこれを上回っていると推察されます。

◆国立感染症研究所ホームページ:[http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k00-g15/k00\\_01/k00\\_01.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k00-g15/k00_01/k00_01.html)

### <細菌性赤痢>

*Shigella sonnei* 1 件の報告がありました。感染経路、感染地域等不明です。

### <パラチフス>

1 件の報告がありました。パキスタンでの感染が推定されています。

### <レジオネラ症>

1 件の肺炎型の報告がありました。感染経路等調査中です。

### <アメーバ赤痢>

1 件の腸管アメーバ症の報告がありました。国内の感染が推定されていますが、感染経路は不明です。

### <破傷風>

1 件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。破傷風は、その原因や罹患する患者の違いから、創傷性破傷風と新生児破傷風に分類されます。創傷性破傷風は成人の破傷風のほとんどを占め、刺創や挫傷などの他、極めて些細な外傷からの感染が多く報告されています。破傷風菌は広く土壤中に常在しており、農作業等に従事する人は予防接種が重要です。さらに歯槽膿漏患者の病変部位からの感染や、糖尿病患者のインスリンの自己注射や採血による感染も報告されています。また、米国や英国では注射による薬物依存者での報告もあり、芽胞に汚染された薬物、その溶解液や注射器からの感染の可能性が指摘されています。

◆国立感染症研究所ホームページ:<http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/349/tpc349-j.html>

## 定点把握疾患

平成23年12月19日から平成24年1月22日まで(平成23年第46週から平成24年第3週まで。ただし、性感染症については平成23年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成23年 週一月日対照表

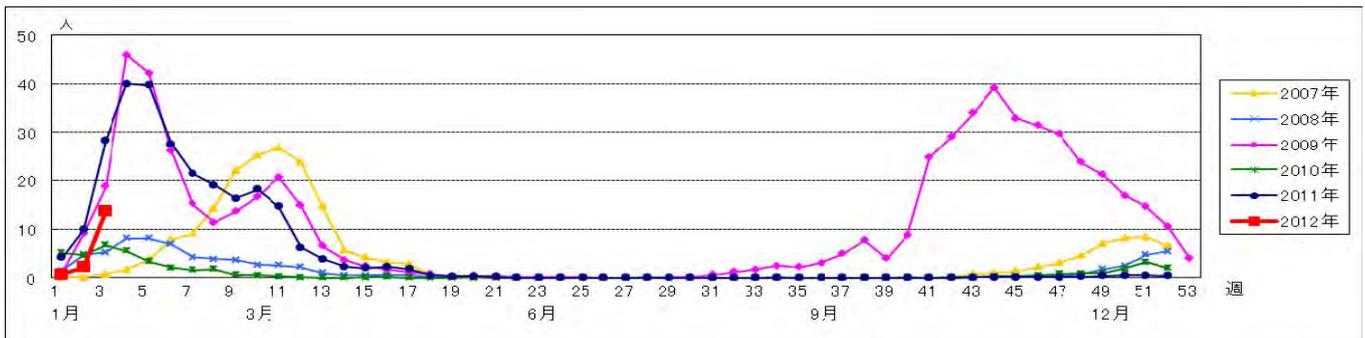
第51週	12月19日～25日
第52週	12月26日～1月1日
第1週	1月2日～8日
第2週	1月9日～15日
第3週	1月16日～22日

### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

#### <インフルエンザ>

第3週に市全体で定点あたり13.71となり、注意報発令基準(定点あたり10.00)を超え、注意報が発令されました。第3週での注意報発令は昨シーズンと同時期です。迅速キットの結果は9割ほどがA型で、1割ほどがB型です。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3型87%、B型13%であり、AH1N1pdm09は検出されておらず、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたAH3型ウイルス14株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI価が、8倍8株(57.1%)、16倍6株(42.9%)となっていました。

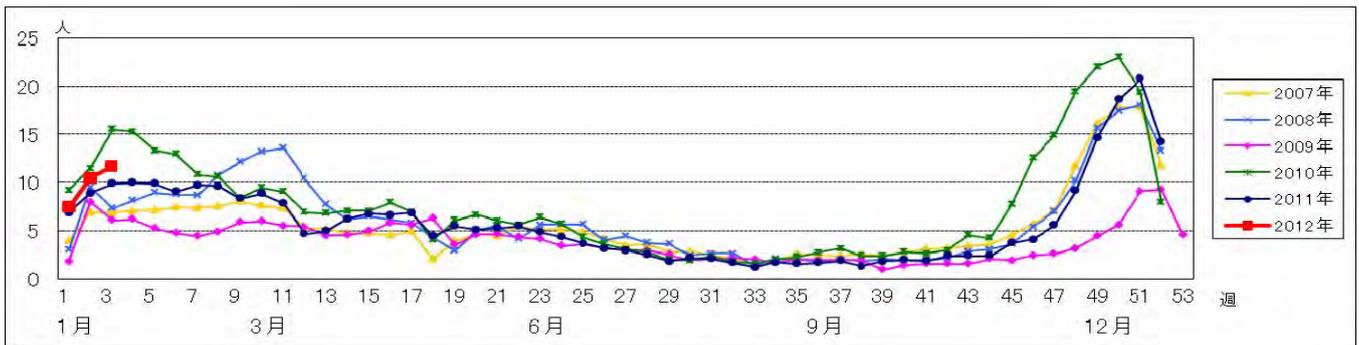


#### <感染性胃腸炎>

市全体で昨年末に流行がみられましたが第51週20.76をピークに減少に転じました。しかし、第2週から再び増加し、第3週には11.69となり、区別では神奈川区が20.67で警報レベルです。引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

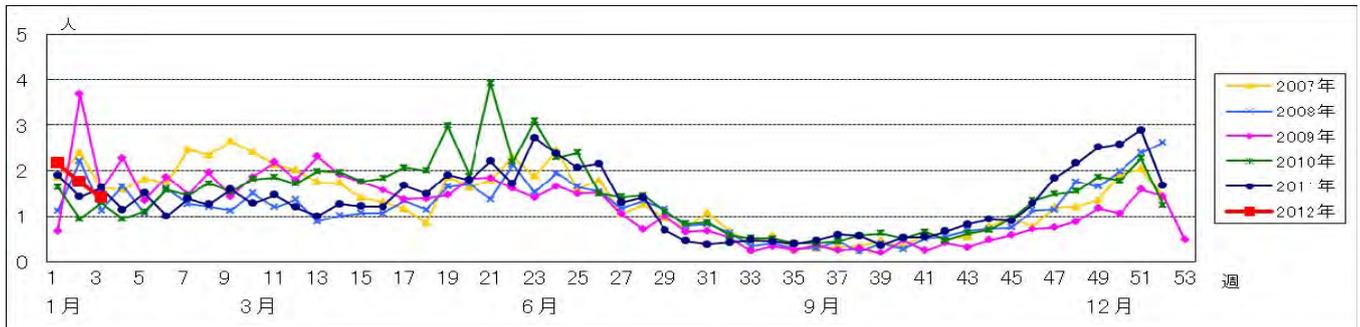
◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:感染性胃腸炎臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/gas/gas201150.pdf>



### <水痘>

市内全体では、昨年 51 週 2.88 と、例年より多い報告が続いていましたが、第 2 週 1.74、第 3 週 1.40 と減少しました。区別では瀬谷区 4.50 で注意報レベルとなっています。



### <性感染症>

12月は、性器クラミジア感染症は男性が13件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が0件でした。

### <基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第51週では定点あたり2.00、52週1.00、1週1.50、2週1.50、3週2.50と、前シーズンの51週0.00、52週0.00、1週0.00、2週0.00、3週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎(*H. influenzae*)が第3週に1件ありました(乳児、予防接種歴2回。治療により快方に向かっているそうです)。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

### <基幹定点月報>

12月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症10件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

### <ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点46件(鼻咽頭ぬぐい液42件、ふん便4件)、内科定点18件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点9件(鼻咽頭ぬぐい液7件、ふん便2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い症例を含む)30人、上気道炎7人、胃腸

炎4人、気管支炎4人、手足口病1人、内科定点はインフルエンザ14人、上気道炎4人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、基幹定点はインフルエンザ3人、発熱3人、心筋炎1人でした。

2月9日現在、小児科定点のインフルエンザ患者12人からインフルエンザウイルスAH3(以下AH3)型、5人からインフルエンザウイルスB(以下B)型、上気道炎患者1人からAH3型、1人からアデノウイルス4型、手足口病患者1人からコクサッキーウイルスA16型、内科定点のインフルエンザ患者7人からAH3型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からAH3型のウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者10人からAH3型、1人からB型、上気道炎患者2人からヒトコロナウイルスOC43型、1人からヒトボカウイルス、1人からパラインフルエンザウイルス3型、1人からアデノウイルス3型、胃腸炎患者2人からノロウイルスGⅡ型の遺伝子、内科定点のインフルエンザ患者5人からAH3型、上気道炎患者2人からアデノウイルス、1人からヒトコロナウイルスOC43型、基幹定点の発熱患者1人からAH3型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

#### <細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が16件、定点以外の医療機関等からは4件あり、赤痢菌(*S.boydii* 2、*S.sonnei* I相)、パラチフスA菌、サルモネラ(*S.Enteritidis*)、コレラ菌(エルトール小川型)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から8件で、A群溶血性レンサ球菌が6件、インフルエンザ菌が2件検出されました。基幹定点からはメチシリン耐性黄色ブドウ球菌が1件、バンコマイシン耐性腸球菌が1件、定点以外の医療機関等からは7件で、B群溶血性レンサ球菌が6件検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(1月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	1月			2012年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌			2			2
パラチフスA菌		1			1	
サルモネラ			1			1
コレラ菌			1			1
不検出	0	15	0	0	15	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	1月			2012年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		1		
	T4	1		1		
	T12	1		1		
	T28	1		1		
	T B3264	2		2		
B群溶血性レンサ球菌			6			6
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			1	
バンコマイシン耐性腸球菌		1			1	
インフルエンザ菌	2			2		
不検出	0	1	1	0	1	1

\*:定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】